

# はたらく女性のフロア通信

発行日 2015年6月25日

NO. 23



はたらく女性のフロアかながわ (WWFK)

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町8-25-203 本間重子気付

電話/FAX 045(323)0653 E-mail wwfk@hotmail.co.jp

HP <http://wwfk.jimdo.com/>

## 「戦争法案」は憲法違反、廃案に！の運動さらに広がる

会員 本間 重子

### ▲5・3憲法集会に3万人

去る5月3日、戦後70年の憲法集会がみなとみらい臨海パークで開かれ、3万人以上の参加者で埋め尽くされました。

戦争立法許すな・平和といのちと人権を！安倍暴走内閣打倒！のスローガンのもと幅広い賛同団体と政党代表（民主党、共産党、社民党、生活と山本太郎）などが参加し、各界を代表する人たちの熱いメッセージと問題提起のリレートークがあり、共感の拍手で盛り上がり「戦争・原発・貧困・差別を許さない！」という集会スローガンが確認されました。

80歳を超えた作家の大江健三郎氏は「平和憲法を持ちこたえて、明日の生き方をつくりだす。アベの米国議会での表明は、日本人は承認賛同していない。それをはっきり言う必要がある。私は今まで安倍首相とってきたが、もはやアベとしか呼べない」と怒りを込めて「戦争法案」、暴走阻止を訴えられました。

あの熱い決意の大集会から1か月の間に、情勢は大きく進展し、「戦争法案」に対して、国会での三憲法学者の「法案は憲法違反である」という表明をはじめ、圧倒的多数の憲法学者が「違憲」と断定するなど、国民の世論と運動の広がりが安

倍政権を追いつけています。世論調査でも8割の国民が今国会での成立に反対し、各地で「戦争法案阻止・ストップ安倍内閣暴走」の声で集会やデモなどが行われています。



### ▲戦争法案廃案に追い込もう

6月13日には、東京臨海広域防災公園で「ストップ安倍政権！大集会」が開かれ1万6千人が参加。京都、千葉、奈良、長野、福岡、宮城などでも集会やデモが取り組まれ、日本中から国会を包囲して、「戦争法案を廃案に追い込もう」と決意を固めました。

私は国会での論戦をテレビで見ていると、共産党などの核心を突く質問にも抽象的な言辞ではぐらかし、答えられずごまかしの空疎な答弁が続き、腹立たしく気分が悪くなってしまい、健康上もよくありません。挙げ句の果てに「質問が長くて説明する時間が与えられない」（6月14日NHK日曜討論での自民党高村氏の発言）には呆れ果てました。

## WWFK第7回総会&報告会

日時 2015年7月23日（木）18時～20時

場所 かながわ県民サポートセンター7階702会議室

内容 ①WWFK第7回総会 18時～19時

○2014年度活動報告と2015年度活動方針

○2014年度会計報告・会計監査報告と2015年度予算

②報告会 19時～20時 「県議会報告」君嶋千佳子（会員）



## 相談から見る最近の労働事情

### ●増え続ける労働相談

6月11日（木）に、神奈川労連・労働相談センター（以下労働相談センター）を訪問（本間重子・小島八重子）し、澤田幸子さん（会員）に最近の労働相談事情を聞きしました。

労働相談は、スタッフ6名がローテーションを組み、連日電話やメールでの相談を担当しています。県内にも、労働相談を行っているところは、労基署や労働センター、神奈川労働弁護団、連合・全労協の組合、NPOなどたくさんあります。その中でも労働相談センターへの相談件数は増加しているとのことでした。

今年、1月～5月までの5か月で620件の相談が寄せられています。このまま推移すると今年度は1400件を超え、リーマンショック時の1240件を上回る見込です。

相談が増えている理由として、職場の人間関係がうまくいかず、相談する人がいないことから、ネットで調べて気軽に相談してくる（インターネットHP、メールが616件（99%））ケースがあげられます。労働センターが労働組合であることを知らないで電話してくる場合が少なくないとのことでした。

### ●相談に的確なアドバイス

澤田さんに話しを聞いているわずか1時間半の間に、電話が4件かかってきました。

「解雇された。納得できないどうしたらよいのか」との電話に、「無理やり自己都合で解雇されたのであれば、直ちに、内容証明を書いて送りなさい。会社社長あてに、20行×23行。①解雇は納得できない。②解雇通知書を送れ。③自己都合は、無理やり書かされたので撤回する、を書いて3枚コピーして、1枚を会社、1枚は郵便局、1枚は自分でもっていること」と的確にアドバイス。

労働組合を紹介し、受話器を置く。このやり取り

はわずか15分です。相談した労働者が自分で何をすべきか理解し、行動できるようにアドバイスを短い時間で処理。さすが、澤田さんと思いました。

相談620件の内訳をみると、女性からの相談は289件（52.9%）、年代は、40代が165件、30代が133件、～20代が116件と全体の66.8%を占めています。

| 相談内容(複数回答可) | 件数  | 割合     |
|-------------|-----|--------|
| パワハラ・セクハラ   | 126 | 14.4%  |
| 賃金・残業等未払    | 108 | 12.3%  |
| 労働契約違反      | 103 | 11.8%  |
| 解雇・雇止め      | 98  | 11.2%  |
| 労働時間・休暇     | 97  | 11.1%  |
| 労働条件切り下げ    | 55  | 6.3%   |
| メンタル不全・疾患   | 48  | 5.5%   |
| 退職の強要・勧奨    | 35  | 4.0%   |
| 労災・職業病      | 28  | 3.2%   |
| 社会・雇用保険     | 13  | 1.5%   |
| 配転・出向・転籍    | 11  | 1.3%   |
| 不明          | 8   | 0.9%   |
| 組合結成・加入     | 5   | 0.6%   |
| 倒産・工業移転     | 1   | 0.1%   |
| その他         | 140 | 16.0%  |
| 合計          | 876 | 100.0% |

\*2015年1月～5月までの620件の相談から

雇用形態は、正社員が320件と半分、パート・契約・アルバイトが227件（36.6%）、派遣は42件です。事業所規模は、151件（24.4%）が不明ですが、29人以下の事業所が199件（32.1%）と多くなっています。相談内容（複数回答可・別表参照）は、「パワハラ・セクハラ」が1番多く、「賃金・残業等未払」「労働契約違反」「解雇・雇止め」「労働時間・休暇」と続いています。



### ●働く場が奪われる深刻な相談

女性からの相談内容の特徴は、◎派遣契約3年数か月組の雇止め、契約社員の5年組の駆け込み解雇が多い。◎横浜みなとみらい地域で増加しているのが、試用期間中や入社したばかりで解雇・退職の相談。◎エステ・コールセンター関係の相談が多い。◎外資系企業の横暴が目立つ。◎マタニティ・ハラスメント＝妊娠・出産・育児など関係ないという企業がある。◎職場での暴力・パワハラがめだつとのことでした。

主な具体例をあげてみると、「正規、8月に産休に入るが、人事から呼ばれて、妊娠を機に会社を辞めたらと言われた」、「ビューティアシスタント、売り上げを毎日のように点検されるパワハラを受け、うつ病を発病」、「コールセンターで契約更新されず、理由もいわない、辞めたいと言ったら、依願退職の用意をされた」、「紹介派遣で4月から契約社員になる予定が、その前に嘱託試験を受けさせられ、落ちたので社員になれない」、「クリーニング店で15年勤務の正社員、基本給は最賃以下、残業代は定額、有給休暇なし」など、労働条件の低下や働く場所を奪われる深刻な相談が後を絶ちません。

### ●労働相談センターの役割は重要

相談から職場に労働組合のない実態やあっても機能していない実態が浮かび上がります。相談の中で、退職強要・雇止めに泣き寝入りせず立ち上がり労働組合に入り、労働者の権利を主張し、紛争を解決していく事例もありますが、まだまだ多いとは言えません。

ブラック企業が社会現象化する中、労働者の働き方、働かせ方が大きな問題になっています。相談者の雇用形態が多様化し、非正規、若者、外国人労働者からの相談が増加していることから、労働組合への組織化にむけたとりくみをすすめていくことが重要です。

（小島八重子）

神奈川労連・労働相談センター  
相談無料・秘密厳守  
0120 - 378 - 060

## NPTニューヨーク行動に 参加して

会員 白井 洸子

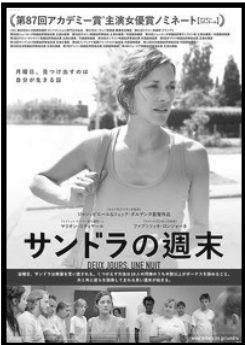


医療生協かながわの代表の一人として、参加することになりニューヨークまで行ってきました。もっと若い人の方が

と思ったのですが、行く人がいないと聞き、つい手をあげたら、決まってしまったのです。医療生協は組合員に若い人が少なく、70歳代は働き盛りです。今回は、若い職員の男性と私の2人が代表。セントラルパークの前で署名活動をしたり、マンハッタンをパレードしたり、持っていった署名633万6205人分を国連関係者に提出しました。彼らは、「核軍縮は政府だけではありません、市民一人一人の行動があってこそ実現できます」と述べ、「署名を持ってきてくれて感謝です、とても心強いです」と署名を高く評価してくれました。

## 映画が好き 「サンドラの週末」

会員 池田 資子



私がサンドラだったら、私がサンドラの同僚だったらと考えながら映画を観ていました。どんどん引き込まれていきました。

工場で働くサンドラは心身の不調で休職していました。やっと職場復帰出来ることになった時一本の電話があり、突然の解雇を告げられます。「泣いちゃあだめ」彼女は自分に言い聞かせながら涙が止まりません。サンドラの復職か1000ユーロのボーナスか。同僚たちは選択を迫られ14対2でボーナスを選んだのです。しかし、まだ再投票のチャンスが。サンドラの辛くて長い週末が始まります。

同僚ひとりひとりを訪ね、復職に投票してほしいと話します。家の修繕や子どもの学資の為に税金が必要。給料だけでは成り立たず、休日も働いている者。ボーナスを選択したことを後悔し

アメリカでも核廃絶や、公民権運動や、9・11はおかしい真実は何か?とか、いろんな団体が活動していました。もう少し時間があればもっと話をしたかった。

国際シンポジウムにも出席し、署名こそが市民の声を届ける手段。署名をしてもらうことで、事実を知り、核のことを知り、ひいては政治に関心を持つようになる。政府は隠しておきたいのだが次第にそれができなくなってきている。署名を続けることが大事と参加者それぞれが述べました。

特に被爆者の方々が、国もアメリカも放射能は怖いものではないと思わせるようにあらゆる手を使って、平和利用を進めその結果、福島の大惨事を起こしたのに、まだ懲りずに再稼働を進め、外国に原発を売りに行っている。被爆者は国から十分な治療を受けないまま死んでいった。今でも国は被爆者の認定を拒んでいるし、被爆二世の調査も行っていない。事実を隠さずに広く市民に知ってもらうことが必要と話された。被爆者の声を直接聞くこともあって、核廃絶を、ますます深く再確認した日々でした。セントラルパークも散歩したかったなー。

サンドラに協力をする者。居留守を使って話しを聞こうとしない者。移民で臨時雇いのため、仕事を失う不安の中、サンドラに投票を約束する者など。同僚たちの暮らしが見えてきます。サンドラは淡々と話し、相手を責めることはありません。

果たして16人の過半数を獲得して、職場復帰出来るのでしょうか。ある時は勇気をもらい、ある時は「自分は必要のない人間」と蔑み、激しく揺れ動くサンドラ。夫、子ども、友人に助けられながら説得を続け、月曜日を迎えます。観客もハラハラ、ドキドキです。そして、投票の結果は……。

ラスト、ほほ笑みながら歩いて行くサンドラ。人間として、労働者として拍手です。「駄目ではない」「ひとりではない」と思っていることでしょう。静かな感動が伝わってきます。

理不尽な選択で分断される職場の仲間、1000ユーロ(15万円弱)に揺れ動く労働者の暮らし。もし労働組合のある職場であれば、どんなストーリーになったのでしょうか。あれこれ考えてしまいます。

## 新生活をエンジョイしています

中嶋 ひとみ (会員)

私は定年退職まで35年間ずっと看護師を続けてきました。現在は時間に追われることがない静かな毎日を送っています。

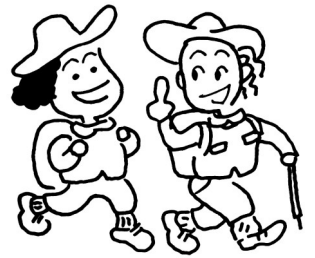
今までの生活と大きく変わったのは食事です。きちんと朝食を食べるようになりました。今までは食べる時間がとれず、きりきり舞いして出勤していました。夕食時間も早まり、19時台には食事が始められます。働いている時は購入してきたおかずを温めたり調味料をかけて食べる事が多く、調理があまりできませんでした。今は料理して食べる事が多くなりました。庭のミツバや山椒を料理に加える回数も増えてきました。

もう一つ、ご近所の方々との交流が増えるようになりました。ゴミ出し後、近所の方と庭木の話になり、お庭の花を見せてもらったり、増やし方の伝授を受けたりすることもあります。共稼ぎで不在の多い我が家は、「訃報」の至急回覧などは回ってこず知らないでいる事が多かったのですが、今は草むしりをしている時など、ご近所の

方からいろいろな情報が得られるようになりました。

職場がない今、私の話相手は地域の方々になりました。県知事選挙の際には、現知事が県立病院機構の職員を増やさず、いかに入院患者が悪影響を被っているのかなどを話して新しい知事への刷新を訴えました。庭に植えた野菜の話から、スーパーでも野菜が高くてなかなか買えないこと。安倍政権はオスプレイを何機も購入しているが、あの軍事費を教育や医療、福祉などのためにまわすべきだなど話が広がります。

バラやポピーあじさいの見ごろにはあちこちのガーデンに出かけ、美しい花を存分に楽しんでいます。山歩きにもこれからどんどん出かけたいと思う毎日です。手作りの食事や近所の人々との交流、美しい花を見に出歩く生活は、ごくささやかな普通の暮らし方だと思うのです。仕事を持っていても、ささやかな幸せを感じられる暮らしを皆が送れるように、そんな世の中にしていきたいと思っています。



## 神奈川の年金者組合女性の会

村田 泰子 (会員)

年金者組合は北海道から沖縄まで各県に組織され、全国で11万6千人余の組合員がいます。神奈川県本部は各自治体に支部を組織しています。組織が小さく近隣の自治体と一緒に活動している支部もあります。現在県内に49支部あり、1万600余人の組合員がいます。41支部に女性の会があり、女性組合員は6千人余と男性より多くなっています。

女性の会の運動は、ひとりぼっちの高齢者をなくす、孤独死をさせない、安心して老後を暮らせるようにを目指して、女性ならではのサークル（折り紙、フラワーアレンジメント、フラダンスなど）を作り、仲間を増やしています。各支部は女性高齢者実態調査等の結果や、地域の要求をまとめて自治体に要求し、バス停に椅子の設置など勝

ち取っています。

また、年金支給日には各支部で支給日宣伝行動を行っています。一昨年の10月からの年金1%引き下げに反対し、不服審査請求を年金機構に提出しました。結果は却下でしたが、年金者組合以外の方も賛同し、神奈川では1万2千余の方が参加してくれました。私たちは再度、再審査請求をだし、現在、集団訴訟をきめ、原告250人になっています。7月15日に提訴する予定です。

これらの運動を引っ張っているのは女性組合員です。仲間増やしでもお話しが好きな女性の方が男性より増やしています。25年前に年金者組合ができた当時は男性組合員が多かったですが、現在は女性の方が上回っている事でも証明できます。

